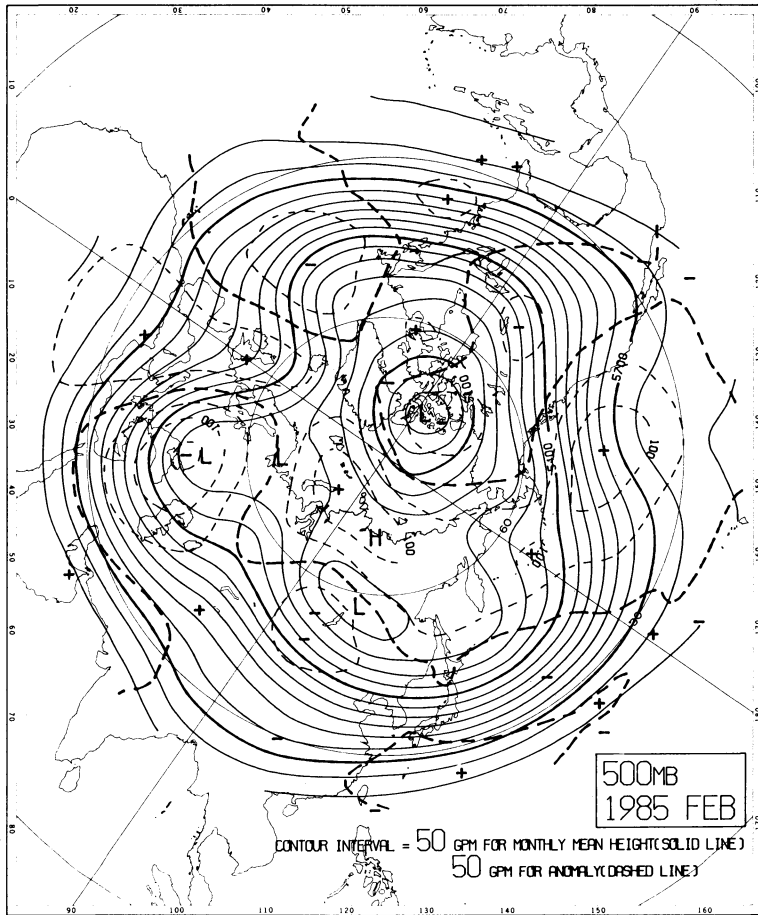


月平均 500 mb 天気図. 1985年 2月.

(破線は平年からの偏差. 単位:m)



2波数型へ

1月の循環は3波数型・南北流型であったのに対し、2月の循環は2波数型で、東西流型に近づいた。西ヨーロッパではリッジが持続し、リッジの西側の北大西洋方面と東側の東ヨーロッパ方面には寒気が南下し、スイスでは大雪となった。この北大西洋のトラフ、西ヨーロッパのリッジ、東ヨーロッパのトラフというパターンはEA*パターンと呼ばれている。また、1月には北太平洋の負偏差、北米大陸西岸の正偏差、ニューファンドランド島付近の負偏差というPNAパターンがみられたが、2月は逆に、北太平洋の正偏差、北米大陸西部の負偏差、北米大陸東岸沖の正偏差と「逆PNAパターン」がみられる。

日本付近で冬の気圧配置が持続するときには、シ

ベリアの90°E付近またはアラスカ方面でリッジが持続するのが普通である。が、今月は、どちらの位置にも顕著なリッジはみられず、日本付近では冬の気圧配置は持続しなかった。2月の日本は寒暖の変動が大きく、太平洋側を中心にかかなりの降水**があり、昨年夏から続いていた水不足もだいぶ解消した。地上のシベリア高気圧の東シナ海南部への張り出しは平年に比べ弱く、また、その南のフィリピン方面には高気圧のセルがみられる。東シナ海南部は、これら2つの高気圧の境目となって前線が停滞しやすく、石垣島では月降水量578ミリ(平年比588%)を記録した。

* East Atlantic

** 平年比200%~300%

(長期予報課 宮崎保彦)